

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600506		
法人名	医療法人悠紀会		
事業所名	ゆうきの家		
所在地	〒865-0011 玉名市上小田1180		
自己評価作成日	平成24年3月10日	評価結果市町村報告日	平成23年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成24年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの一日の始まる時間が異なり、本人の生活スタイルに合わせて過ごせるよう支援している。日常生活では、出来る限り本人の希望を叶えられるよう、自己決定出来るような声かけを行っている。また、本人の気持ちが動いた時に「したいこと」「出来ること」が叶うよう支援をし、本人の「今」、気持ちを大切にその人らしく暮らせるよう働きかけをしている。ホーム内にはいろんな居場所をつくり、職員が寄り添い、一人ひとりが安心して過ごせる支援している。夜間は居間で、寂しさが感じられないよう、一緒に静かな時間が過ごせている。安心して暮らせ、情報が伝わる工夫として、日めくりカレンダーやクリスマスツリーや雛人形等を飾り季節感を感じられるようにしている。食事や保存食は季節の食材を使って入居者と一緒に料理を作って、共に暮らす視点に立ち、食べる楽しみも一緒に味わっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

菊池川沿いの医療法人の広い敷地内に和風の落ち着いた佇まいの2ユニットのホームが建てられている。周囲には民家が少ないものの、地域との交流を大切にし、デイサービスの受け入れで在宅介護を支えたり、小学校や地域で認知症サポーター養成講座を開催したりと、地域における認知症啓発の拠点となっている。一人ひとりの望む暮らしや「今」を支えるため、「できる事」「したい事」を把握し、その人らしい時間の流れや思いの中で、職員が寄り添いながら18人18様の生活を支援している。入居者の能力を活かしながら決定権があるような場面提供をし、心の動きに働きかける支援を行っている。職員の勤務体制にも配慮があり働きやすい職場環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、同じ方向性を持っている。ご本人の気持ちを大切に、心が動いた時に出来る支援を行っている。	理念はリビング入り口や事務所などに掲示し、共有を図っている。一人ひとりの思いを大切に能力を引き出しながらこれまでの生活が継続できるよう心がけている。年度末や外部評価時期にふり返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加している。運動会、清掃作業等に参加している。地域主催の夏祭りには、かき氷の屋台を出し、参加協力を行っている。	地域の清掃作業や運動会に参加したり、散歩時に挨拶を交わしている。野菜を頂いたり、おすそわけの関係もできている。地域の夏祭りにはかき氷の屋台を出し協力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講し、認知症サポーター養成研修、活動等に参加、協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、情報を共有し、質問に対しては、その場で市の職員の協力を得て答えるようにしている。いただいた意見は実践に活かせるよう努めている。	2ヶ月ごとに開催し、ホームの状況報告や質疑応答を行ったり、質問には市職員の方に答えていただく事もある。ホームの悩みを投げかけ一緒に考えたり、地域の課題の相談も受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、日頃の情報交換を行っている。キャラバンメイトとしても伝えている。	市担当者とは運営推進会議に参加してもらい日頃のホームの様子を把握してもらっており、また日頃より相談や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	誰でも自由に入れる様、玄関は開放している。転倒の可能性がある場合は、職員間で事故に至らないよう、身体拘束をしない方法で対応を考えるようにしている。	職員は法人内で実施される尊厳をテーマにした研修会に出席し理解を深めている。玄関は施錠せず身体拘束をしないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加を行い、学びを深め、スタッフ全員で取り組んでいる。		

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用している人はいないが、1年に1回以上は研修会に参加して、学んで職員間で共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、同じ書類を2部準備し、説明を行っている。必要時にはその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にホーム便りを発行し、生活状況を家族に伝えている。面会時には意見が出せるよう心掛けている。いただいた意見は職員間で共有しケアに活かせる様にしている。	請求書と一緒に生活状況を一筆添えたり、ホーム便りを発行しホームでの様子を報告している。面会時に要望や意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、出た意見や要望は検討しケアに反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行い、全スタッフで意見交換を行っている。皆が意見を言える機会にはなっている。また、日頃のケアの中でも、気づいたことは言える様にし、出た意見は皆で検討している。	日頃の生活の中でも施設長や管理者に何でも話しやすい関係ができています。毎月のミーティングで意見交換をし改善するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見をよく聞いてもらい、改善できるところから、対応できている。 人事評価制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加など学ぶ機会がある。 習い事や試験を受ける機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH支部会や研修受け入れなど交流の場がある。 支部会の勉強会や食事会、のど自慢大会などの交流会に参加している。		

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のお試しや宿泊が出来る。 本人の気持ちを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互い情報交換を行い、利用者への支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族などの必要としている支援を見極め、スタッフ全員でプランを立案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物やドライブ、花見などに出かけたり、共に食事作りをしたり、普通の生活が出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常生活の様子を伝えている。 家族との時間が持てるようセッティングしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	着替えを取りに自宅まで一緒に行ったり、本人や家族の希望があればその都度対応している。行きつけの郵便局に行ける様支援している。	在宅生活で利用していた理容室、馴染みの神社参拝、自宅や郵便局など希望がある時はその都度行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士と一緒に過ごす事も多くあるが、お互いにストレスにならない様に居場所の配置なども工夫している。		

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、その都度対応している。 葬儀や法事にも出席している。 入院時洗濯物を取りに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、出来る限り叶えられる様対応している。 食事等も本人の好みの物が食べれるよう、その都度対応している。	家族の情報や入居者の日常の言葉や行動から意向を把握している。職員が気づいた事はシートに書き込み職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時に家族より情報を頂き、情報を共有している。アセスメント用紙に家族が記入をされる場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にしている。 食べれる時にいつでも食べれる様対応している。 日々の生活を共にしながら現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にスタッフ全員でプランの見直しを行っている。	家族や入居者の意向をもとに、職員間で話し合いながらプランを作成している。毎月のモニタリングやカンファレンスを実施し状況に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の出来事などを記入し、職員間で情報を共有している。 介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊や、受診等出来る限り支援できる様心掛けている。		

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の郵便局や市役所に出かけている。通いなれた床屋、病院、スーパーへ出かけて、残された能力を大切に活かせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院で受診している。病気の内容に応じて、家族・本人と話し合い、その都度対応している。	希望するかかりつけ医とし、家族の状況に応じて同行受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報を伝えている。状況に応じて外来に連絡を入れ、必要時に受診し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のカンファレンスへの参加等、医療機関とは、こまめに情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて、その都度家族へ説明している。医師、家族、スタッフと一緒に話し合いを行い、家族の意向を大切にしている。	「病状悪化時の対応指針」を作成し、入居時に説明し同意も得ている。状況の変化に応じて情報を伝えながら意向の再確認を行い、医師・家族・職員と話し合い希望に添うようにしている。看取りについては夜勤時の二人体制もできるよう法人の許可ももらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急連絡の訓練を行っている。応急手当の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っている。避難経路に物を置かない様になっている。いつもバケツに水を入れている。チリ箱のゴミも夜間回収している。	年2回入居者も参加して消防訓練を実施し、そのうち1回は消防署が立ち会っている。日頃よりバケツに水を汲んでいたり、夜間はちり箱のゴミの回収をするなど火災を起こさないような意識もっている。	災害時における地域への協力を呼びかけ、地震や風水害時の対応マニュアル作成とともに、シミュレーションを話し合うなどの取り組みにも期待します。

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、対応している。自室は、鍵がかけられる様にしてある。状況に応じて、呼名等はなじみの言葉を使って対応する事もある。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心がけ、自己選択ができるような声かけを行っている。居室はすべて鍵がかけられるようにしてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に、本人自ら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムがあるので、そのペースを大切に、希望があれば出来る限り叶う様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の訪問がある。ご家族と一緒に行きつけの床屋に行かれています。 更衣、洗面時の支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じたメニューや食事形態を提供している。誕生日は、ご本人に好きな物を聞き作っている。個々に応じたテーブル配置をしている。	ユニットごとにその日の食材をみて季節感や希望を取り入れながら献立を決めている。入居者のできる事を一緒に行い、職員も同じ食事を摂り会話を楽しんでいる。入居者の状態に応じた食事形態を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はこまめに飲んで頂き、個々に応じた対応をしている。食事が入らない時は好きな物を準備し、食べて頂き、次の食欲につなげている。栄養補助飲料も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後行っている。 1日一回ポリデント消毒を行っている。 定期的に歯科衛生士の訪問がある。		

グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングを見てトイレ誘導を行っている。パットの量を減らす様に心掛けている。スタッフ2名でトイレ誘導を行っている。昼間は出来るだけトイレを利用している。	自立の方も多くプライドに配慮しながら、昼間はトイレでの排泄を支援している。介助が必要な方は排泄パターンを把握し誘導を行っている。失禁があった時はシャワー浴などの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、塩麴、ファイブミニ、センナ茶を使用している。こまめに水分補給を行い、状況に応じて対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望、その時々のお気分に合わせて対応している。スタッフ2名で介助を行っている方も居る。	入居者の希望に応じた支援を行っている。入浴拒否の方にはタイミングを見て言葉かけに配慮しながら無理強いせず、清拭などで清潔保持に努めている。夜の9時まで入浴できるような職員配置になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々のお気分に、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを大切にしている。天気の良い日は散歩やドライブに誘い、夜間の安眠につながる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より説明・指導を行っている。副作用の状態観察などは、スタッフ全員で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた支援を行っている。月2回山鹿まで行きスタッフと一緒にパッチワークを習っている。タオルのしわ伸ばし、1日2回マグロを食べている方や散歩にほぼ毎日出かけている方も居る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今何かをしたい」と思われたり、希望された時にできるだけ叶えられる様対応している。買い物、ドライブ、季節の花見など体調を見ながら支援している。	法人敷地内の散歩や買い物、周囲の草取りなど外気を感じられる支援を日常的に行っている。一人ひとりの「できる事」「したい事」などを把握し、自宅に帰ったり月2回パッチワーク教室に通ったり、神社参拝、ドライブ、など楽しみ事の支援も行っている。	



グループホーム ゆうきの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の希望に応じてお金を預かっている。小遣い帳をつけている。面会時などに状況報告をしている。本人が所持されている方も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物などが届いた時、お礼の電話をかけられる為の支援や、年賀状・手紙のやり取りが出来るようお手伝いしている。家族と写った写真付の葉書を送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇や庭、畑などに季節の花、野菜などを植えている。テーブルや椅子を色んな所に置いて、居場所を作っている。冬はコタツを置いている。お雛様、クリスマスツリーなどの季節の飾りをしている。	天窓の光をカーテンで遮光したり、ゴーヤを植えグリーンカーテンにし収穫の楽しみにもなっている。リビングには雛人形を飾るなどその時期の季節を感じられるよう支援している。ソファや家具の配置で人の気配を感じながら居れる場所も確保してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い時は、日向ぼっこをされる方、いつもの場所で過ごされる方、個々に応じ、その日の気分で過ごして頂いている。ソファなど椅子を多く置いている。コタツ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使って頂いている。仏壇・たんす・布団・毛布・ご家族の写真・贈り物・時計など。エアコンの風に配慮し、ベッドの位置を見直している。	慣れ親しんだダンスやテレビ、仏壇などを持ち込み一人ひとりにあった居室作りを支援している。仏壇には毎日仏飯をあげお参りされる方、買ってきたビールを部屋の冷蔵庫で冷やして飲まれる方などこれまでの生活や習慣を継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事作り、味付け、野菜の皮むき、洗濯物の干す前のしわ伸ばし、タオルたたみなど個々の出来る事が発揮出来るような雰囲気作りを行っている。廊下、浴室、トイレ等に手摺・移動バーがあり自立引き出している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600506		
法人名	医療法人 悠紀会		
事業所名	グループホーム 第2ゆうきの家		
所在地	熊本県玉名市上小田1181		
自己評価作成日	平成24年3月10日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中で、入居者と職員が共に生活を楽しむ視点を大切にしている。「どんなことに困っているのか」「どうしたいのか」「どのような暮らしを望んでいるのか」入居者の“今”の思いにより近づくため、また、“今”の思いに即叶えていけるように、表出する言葉・行動の意味を常に感じ取りどのような支援があるのか考えていくことを大切にしている。お一人おひとりの“今”を丁寧に支えていくことを年間のテーマにかかげ尊厳ある暮らし、その人らしい暮らしへのお手伝いを大切にしている。どこからでも外に出て土を踏むことができ、季節の野菜や花を植えたり、オープンキッチンで低床キッチンを設置し、入居者の心の動き、～をしたくなるような雰囲気づくりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間入り口に理念をかかげ、実践に繋げている。本人の思いを大切に見つめ、お一人おひとりの尊厳ある暮らし、これまでの生活の継続ができるよう心がけている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン作戦や運動会に参加。散歩の方や近所の方に挨拶や世間話をする機会を大切にしている。野菜をいただく機会があり、頂き物をおすそわけすることもある。お隣に訪問したり、介護サービスの相談を行う機会もある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玉名市の認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状をお伝えしながら、メンバーの方が話をしやすい雰囲気大切にしている。また、地域での現状を語っていただきながら、事業所でできること、地域でできることを一緒に考えて行けるように心がけている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員、地域包括センター職員に運営推進会議のメンバーとして参加協力を得ている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年尊厳をテーマに法人全体で全員参加の勉強会があり、理解を深めている。屋間の施錠や身体を拘束することはない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	23年度法人勉強会は、『自分らしく』を支え続けるために～虐待防止法の視点から～と題し、皆で勉強した。虐待が起きないように努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者が活用している。制度に関する理解は今後も深め、適切なアドバイスや必要時繋げていく事ができるように支援していきたい、これからも研修会、勉強会等で学ぶ機会を作っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約側と事業所が同じ書類をみながら説明をし、同意を得ている。互いの書類に割り印をおし再確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、話しやすい雰囲気を大切にしている。意見・要望は職員間で前向きに捉えられるよう考えていきたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の生活の中や月1度のミーティング時に意見を出しやすいようにし、皆で検討して決定をするようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度がある。子育てをしながらでも仕事ができる体制がある。定年退職後の働ける職場環境がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会が定期的に行われている。新人者には、新人研修のプログラムがある。法人外の研修にも参加できている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の認知症実践者研修や開設施設の実習の場として、また県や玉名郡市グループホーム連絡会に参加し交流の場がある。2ヶ月に1回の郡市GH連絡会では、定期的な勉強会を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傍にいないこと、本人の話を聞くこと、意思表示が難しくなっている人は、本人の発する言葉・行動の意味を感じ、その人の思いを感じられるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHへ入居を決断する家族の思いや、これまでの家族の苦労話や大切な家族として思いを感じとれるように傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りの要望に答えるようにし、その時に応じた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、したい事を一緒に楽しんでいる、利用者から教えていただくことも多い。自然の中で、喜怒哀楽を表現していただき、それを共に感じることも大切と考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の時間を大切に見守っている。終末期の母親を「自分が看取りたい」という思いに、泊まって過ごせる環境の提供又、月に1回は家で過ごさせたいの思いに、リフト車での送迎をし、家族の思いに添えるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅生活で利用していた床屋さんへの送迎。馴染みの神社への参拝。ご近所への訪問等本人の行きたいところへ行けるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調不良や混乱している入居者を心配したりする場面があり、「ありがとう」を伝えている。入居者同士の相性やその時の状況の中で、居場所・テーブルの位置も配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を送ったり、入院時の面会。家族にお会いした時は挨拶したり、話を聞くようにしている。 退居後、逝去された方等、最後のお別れに葬儀に参列しお参りをしている。法事が終		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動から本人の思いに近づけるようにしている。身体的・心理的・生活史・周りの環境など本人の背景を整理しながら、本人の立場に立って考える機会を作っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での情報提供をもとにしたり、家族から話を聞き把握するようにしているが、すべてを把握できてはいない。日々の生活を通じ感じれるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもの暮らしぶりをもとに、いつもと違う心身状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、本人・家族の言葉を聞きながら、職員が気になる事・困っている事。また、現状の中から本人が何に困っているのか、どうしたいのか、どういう支援を望んでいるのか等ケアのあり方について話し合いケ		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に記入している、本人の言葉と職員が見たことはなるべく記入し職員間の共有につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の思いに即応じれるようにしている。夫婦で買い物に行ける時間を支援したり、家族との時間を大切にしたいと外泊を希望する時は車イス対応の車で送迎を行っている。また、食事を一緒に摂っていただいた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容店が終了時に迎いの連絡をしていただいている。スーパーの店員さんから声かけや気づかいをしていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた、受診とかかりつけ医への定期的な受診を行こなっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気になる事などGHの看護師に相談しているまた法人内の看護師に相談し適宜、助言を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くことで、病院関係者との情報交換の場としている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時緊急時対応についてと急変時の対応についての同意書があるが状況のなか本人、家族の思いにそって、情報を伝えながら再確認し話合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会で消防署立会いの中、心肺蘇生法とAEDの講習会が行われた。日頃から訓練などで、実践力を身につけていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練をしている、年に1度は消防署の立会いで行っている。法人からの協力体制はできているが、地域での体制は今後、運営推進会議等を利用して考えていきたい。緊急通報装置の設置があった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の大人の人としての人格を大切にし、否定せず、自己選択できる声かけを大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選び、自分で決められるような言葉掛けや対応に努めている 本人が気持ちを表出できるよう、ゆっくりと時間をかけて待つを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらも、一緒にその日の生活を楽しむことができるよう心掛けている。心が動くかわりと、決め事を作らず業務として職員が先走りしないように気をつけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服等選択できるよう働きかけている 介助が必要な人で朝・夜の洗面は、洗面所で行っている。自分で鏡を見ながら自由にできるよう、櫛を準備している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねながら、利用者の無理のないところで一緒に食事作りをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適宜お茶やポカリ・きな粉牛乳・ヤクルトなど水分を摂れるようにしている。食事が食べれない人には、本人の好きな物・食べれる物で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあつた介助をしている、食後お茶を多く飲んでいただいている。夕食後は声かけし歯磨きを介助している。夜間義歯はポリドントにつけ洗浄し衛生面にきをつけている 歯 科衛生士による口腔ケア指導も受けている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導等を行っている。認知症の進行により、トイレでの排泄が難しくなっている人もあり、後追いのケアになる場合もある		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を提供するようにしている。食事に野菜が多くとれるように工夫している。毎日、きな粉牛乳と手作りヨーグルトを食べるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に勤めるのではなく、本人に尋ね本人が入りたいと言われ、気持ちが良い時に入浴してもらっている。入浴時間と決め付けず、夜の9時までは、入れるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休める場を本人に決めてもらう。入眠時は「お休みなさい」等心地よい言葉をかけるようにしている。一人が寂しい人には、自室で、休まれるまで一緒に付き添うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されたときは、何のくすりか、副作用等Drや薬剤師に尋ねたり、くすり辞典で調べるよう心掛けている。申し送りや業務日誌に記録し職員間で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌う会で、一緒に声をあげ楽しく歌いたい人、得意の料理で食事作りを手伝う人、花壇の草取りをする人、散歩を楽しむ人、ビールが好きな人、一人ひとりの「出来る事」「したい事」に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や、地域の運動会等に出掛けられている。日々の買い物や、希望時は自宅に帰る等対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を持つておきたい」の思いに、家族の協力を得、自己管理をされている。家族・本人の希望で預かり金として預かっている方もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの娘さんから、贈り物が届いた時は、お礼の電話をし、声を聞いて頂ける様に努めている。本人用の携帯を所持している方あり、本人の希望に応じて対応している。希望時には、すぐ応じれるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が気になる方は居室に遮光カーテン等に対応している。花や季節に応じた飾り等をし、季節感を味わう事ができる様にしている。保存食(梅干作り・味噌作り・干し柿・切干大根等)心地よさと潤いを大切にしている。犬を飼い、犬を見ることで言葉を発する機会が増え、汗気が出ている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況のなかで、家具の配置を換えたり、ソファを移動したりしている。家の中に、チョット腰掛けて過ごすことのできる場所、人の気配を感じながら居れる場や人の動きが見れて過ごせる場がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が本人のために持参された、仏壇や御主人の写真、お雛さまの時期は雛人形を飾っている。慣れ親しんだダンスや冷蔵庫・テレビの持ち込みもある。本人の過ごしやすい空間作りに心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	低めの物干し、キャスターつき洋服掛け、台所は低床型キッチンの設置、安全面では床のバリアフリー等、自室の入り口の表札、自室ベランダに物干しをおき 自立支援につなげている		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練は実施できているが、地域との協力体制を図ったシュミレーションができていない。今後、地域を含めて、災害時(地震・風水害など)の話し合いの場をもうけ、対応マニュアル作成とともに、シュミレーションを図っていく必要がある。	H24年度、1回目(10月)の消防訓練までに、地域との話し合いの場をつくり、対応マニュアルの作成とともに、シュミレーションを行う。	① 災害対策対応マニュアル作成 ② 運営推進会議時に、マニュアルを公表し提案をいただく ③ 10月消防訓練の実施(地域の方の参加)	6ヶ月
2	13	日々のケアの中で、ケアに自信が持てなくなったりケアのゆらぎがでてくる可能性がある。常に、学びながら根拠に基づいたケアを行っていく必要がある	職員全員が自信をもって、ケアを行うことができる。	①月に、ユニットごと1人ずつ、外部の研修に参加する ②月に、1回のゆうきの家、勉強会実施(全職員参加)	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。